

官報號外 昭和十七年二月十一日

(第七十九回) 帝國議會衆議院議事速記錄第十二號

昭和十七年二月十日(火曜日)

午後一時四分開議

議事日程 第十一號

質問

昭和十七年二月十日

午後一時開議

質問(清瀬一郎君提出)

一 我國人口增加ノ趨勢ニ關スル

質問(清瀬一郎君提出)

第一 兵役法及共通法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 退役將校ノ豫備役復歸ニ關スル

法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 隆軍刑法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 隆軍軍法會議法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第五 海軍刑法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第六 海軍軍法會議法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第七 船舶保護法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第八 豊國法(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第九 農地地主法(林平馬君等提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十 農地國家管理法(平野力三君等提出)

(左) 報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲

外十四名提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
青年禁酒法案

提出者 八木 逸郎君 一宮房治郎君
杉山元治郎君 増田 義一君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
如シ
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

提出者 八木 逸郎君 一郎君
川俣 清音君 一郎君
坂東幸太郎君

書 (以上二月九日提出)
我國人口增加ノ趨勢ニ關スル質問主意書左ノ如シ

○議長(田子一民君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諸リ致シマス、決算委員長、建議委員長、恩給法中改正法律案委員長、日本勸業銀行法中改正法律案外五件委員長及ビ民法中改正法律案外一件委員長ヨリ、本日本會議中委員會ヲ開キタイトノ申出ガアリマス、何レモ之ヲ許可スルニ御異議アリマセスカ。

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ之ヲ許可致シマス——質問一、我國人口增加の趨勢ニ關スル質問ヲ許可致シマス——提出者清瀬一郎君

(清瀬一郎君提出)

我國人口增加の趨勢ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和十七年二月七日

提出者 清瀬 一郎

我國人口增加の趨勢ニ關スル質問
最近ニ於ケル我國人口增加の趨勢如何
人口増減ノ趨勢ハ以テ其ノ民族ノ隆頤ヲ
トルニ足ルト稱セラル加之、右ハ各般
ノ政策ノ基礎ヲ爲スモノナルヲ以テ大東
亞ノ建設ニ關スル根本國策ヲ立テントス
ル今日、之ニ對スル出來得ル限リノ説明
アランコトヲ求ム
右及質問候也

(清瀬一郎君登壇)

○清瀬一郎君 本質問ハ、日本人ノ人口竝
ニ其ノ增加ノ趨勢ヲ問フノデアリマス、大
東亞建設ノ大使命ヲ達成スルノハ、結局ハ

内地人口ノ質的竝ニ量的ノ飛躍的ノ發展ヲ基礎條件トスルモノト存ジマス、昨年即ち昭和十六年一月二十二日ニ時ノ政府ハ、人口會議中委員會ヲ開キタイトノ申出ガアリマス、何レモ之ヲ許可スルニ御異議アリマセスカ。〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ之ヲ許可致シマス——質問一、我國人口增加の趨勢ニ關スル質問ヲ許可致シマス——提出者清瀬一郎君

(清瀬一郎君提出)

我國人口增加の趨勢ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和十七年二月七日

提出者 清瀬 一郎

我國人口增加の趨勢ニ關スル質問
居リマス、是デ私共一安心致シタノデアリマス、而モ内地人口七千三百十一万、斯ハ申シマスガ、アノ時ハ既ニ支那事變ノ爲ニ多數ノ軍人軍屬ガ大陸ニ出征致シテ居ル、ハナクシテ、戰前ヨリモ良好ノ傾向ニアルノデアリマシテ、此ノ點邦家ノ爲ニ洵ニ慶賀ニ堪ヘヌ所デアリマス(拍手)茲ニ内地ノ出生死亡ニ付キマシテ數字ヲ以テ御説明致シマスレバ、事變發生ノ年、即チ昭和十二年ハ出生二百十八万人餘デアリマス、死亡ガ百二十一万人弱デアリマス、隨テ此ノ年ノ人口自然增加ハ九十七万人餘デアリマス、戰前平常ノ年ノ出生死亡ハ大體出生ガ二百万、死亡ガ百二十万人、人口增加九十万人ト云フ且安デアリマシタカラ、右昭和十二年ノ狀況ハ寧ロ平年以上ノ良好ナ狀態ニ至ル昭和十三年ニハ、出生百九十三万人弱、死亡百二十六万人弱、隨ヒマシテ人口ノ自然增加ハ、六十七万人弱ト云フ狀態ニナリマシテ、戰爭第三年デアリマスル所ノ昭和十四年ニハ一層悪化シマシテ、出生ガ百九十万人餘、死亡ガ百二十七万人弱、人口ノ自然增加ガ六十三万人餘タリマシテ、我

數ト、竝ニ其ノ增加ノ情勢ヲ承リマシテ、是カラ大東亞建設ノ構想ヲ立てる基本的資料ト致シタイ、斯ウ云フノガ此ノ質問ノ本旨デアリマス(拍手)

〔國務大臣東條英機君登壇〕

○國務大臣(東條英機君) 只今清瀬君カラ我國人口增加の趨勢ニ關シマシテ御尋ねノデアリマス、人口問題研究所、厚生科學研究所モ之ニ附屬サルコトトナリマシタ、アノ時ハ既ニ支那事變モ四年目ニ及んで居リマシテ、我國ノ人口ノ趨勢ハ一體ドウデアラウカト、實ハ内心私共ハ懸念シタノデス、所ガ同年ノ四月十八日ニ内閣ハ、前年即チ昭和十五年ノ十月一日ノ國勢調査ノ結果ヲ發表サレタ、昭和十五年ノ十月一日ノ國勢調査ノ結果ニ依リマスルト、帝國ノ全人口ハ一億五百二十二万六千人、前回國勢調査ノアツタ昭和十年カラハ六百三十万人增加致シテ居リマス、其ノ中、内地人口ハ七千三百十一万四千人デ、是モ前回ノ昭和十年ヨリハ三百八十六万人增加致シテ居リマス、是デ私共一安心致シタノデアリマス、而モ内地人口七千三百十一万、斯ハ申シマスガ、アノ時ハ既ニ支那事變ノ爲ニ多數ノ軍人軍屬ガ大陸ニ出征致シテ居ル、ハナクシテ、戰前ヨリモ良好ノ傾向ニアルノデアリマシテ、此ノ點邦家ノ爲ニ洵ニ慶賀ニ堪ヘヌ所デアリマス(拍手)茲ニ内地ノ出生死亡ニ付キマシテ數字ヲ以テ御説明致シマスレバ、事變發生ノ年、即チ昭和十二年ハ出生二百十八万人餘デアリマス、死亡ガ百二十一万人弱デアリマス、隨テ此ノ年ノ人口自然增加ハ九十七万人餘デアリマス、戰前平常ノ年ノ出生死亡ハ大體出生ガ二百万、死亡ガ百二十万人、人口增加九十万人ト云フ且安デアリマシタカラ、右昭和十二年ノ狀況ハ寧ロ平年以上ノ良好ナ狀態ニ至ル昭和十三年ニハ、出生百九十三万人弱、死亡百二十六万人弱、隨ヒマシテ人口ノ自然增加ハ、六十七万人弱ト云フ狀態ニナリマシテ、戰爭第三年デアリマスル所ノ昭和十四年ニハ一層悪化シマシテ、出生ガ百九十万人餘、死亡ガ百二十七万人弱、人口ノ自然增加ガ六十三万人餘タリマシテ、我

數ト、竝ニ其ノ增加ノ情勢ヲ承リマシテ、是カラ大東亞建設ノ構想ヲ立てる基本的資料ト致シタイ、斯ウ云フノガ此ノ質問ノ本旨デアリマス(拍手)

〔國務大臣東條英機君登壇〕

○國務大臣(東條英機君) 只今清瀬君カラ我國人口增加の趨勢ニ關シマシテ御尋ねノデアリマス、人口問題研究所、厚生科學研究所モ之ニ附屬サルコトトナリマシタ、アノ時ハ既ニ支那事變モ四年目ニ及んで居リマシテ、我國ノ人口ノ趨勢ハ一體ドウデアラウカト、實ハ内心私共ハ懸念シタノデス、所ガ同年ノ四月十八日ニ内閣ハ、前年即チ昭和十五年ノ十月一日ノ國勢調査ノ結果ヲ發表サレタ、昭和十五年ノ十月一日ノ國勢調査ノ結果ニ依リマスルト、帝國ノ全人口ハ一億五百二十二万六千人、前回國勢調査ノアツタ昭和十年カラハ六百三十万人增加致シテ居リマス、其ノ中、内地人口ハ七千三百十一万四千人デ、是モ前回ノ昭和十年ヨリハ三百八十六万人增加致シテ居リマス、是デ私共一安心致シタノデアリマス、而モ内地人口七千三百十一万、斯ハ申シマスガ、アノ時ハ既ニ支那事變ノ爲ニ多數ノ軍人軍屬ガ大陸ニ出征致シテ居ル、ハナクシテ、戰前ヨリモ良好ノ傾向ニアルノデアリマシテ、此ノ點邦家ノ爲ニ洵ニ慶賀ニ堪ヘヌ所デアリマス(拍手)茲ニ内地ノ出生死亡ニ付キマシテ數字ヲ以テ御説明致シマスレバ、事變發生ノ年、即チ昭和十二年ハ出生二百十八万人餘デアリマス、死亡ガ百二十一万人弱デアリマス、隨テ此ノ年ノ人口自然增加ハ九十七万人餘デアリマス、戰前平常ノ年ノ出生死亡ハ大體出生ガ二百万、死亡ガ百二十万人、人口增加九十万人ト云フ且安デアリマシタカラ、右昭和十二年ノ狀況ハ寧ロ平年以上ノ良好ナ狀態ニ至ル昭和十三年ニハ、出生百九十三万人弱、死亡百二十六万人弱、隨ヒマシテ人口ノ自然增加ハ、六十七万人弱ト云フ狀態ニナリマシテ、戰爭第三年デアリマスル所ノ昭和十四年ニハ一層悪化シマシテ、出生ガ百九十万人餘、死亡ガ百二十七万人弱、人口ノ自然增加ガ六十三万人餘タリマシテ、我

昭和十七年一月九日

委員長 篠原 義政
衆議院議長田子一民殿

〔篠原義政君登壇〕

○篠原義政君 只今上程サレマシタ各法案

ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ニ付

テ簡単ニ御報告申上ゲマス、委員會ハ去ル

四日其ノ第一回ア開キ、引續キ開會スルコト二回、内一回ハ祕密會トシテ審議ヲ進メ、

昨日ヲ以テ質疑應答ヲ終リマシタ

今各法案ニ對スル政府當局ノ説明ノ要點ヲ申上ゲマスレバ、兵役法及共通法中改正法律案ノ要點ハ、大別シテ次ノ四點デアリ

マス、第一ハ、海軍ノ第一補充兵役ハ從來一年デアリマシタ所、戰時要員補充上、之

ヲ陸軍ト同様十七年四箇月トシタコトデアリマス、第二ハ、最惡ノ事態ニ於ケル兵員、

補充ノ必要上、勅令ヲ以チマシテ隨時敏速ニ徵兵適齡又ハ徵兵滿期届ノ差出期日ヲ變更シ得ルノ道ヲ開イタコトデアリマス、第三ハ、昨年ノ秋兵役法施行令ガ改正サレマシテ、豫備兵、補充兵ト同様國民兵モ亦召集シ得ルコトトナツタニ對應シマシテ、其ノ召集準備ニ遺憾ナカラシムル爲メ、國民兵ニ對シマシテモ簡闊點呼ヲ行ヒ得ル如ク改正スルモノデアリマス、尙ホ右ニ關聯シマシテ、共通法ヲ改正シテ、第二國民兵役ニ在ル者モ、其ノ義務終了後マデ他ノ地域ノ家ニ入ルコトヲ許サザル旨ノ改正ガ行ハレマシタ、第四ハ、治安維持法ノ改正ニ伴ヒ、同法ニ依ル所ノ豫防拘禁中ハ徵集延期ヲナシ得ルコトシタ點デアリマス

次ニ退役將校ノ豫備役復歸ニ關スル法律案ノ内容ヲ申上ゲマス、支那事變勃發以來、陸軍ノ出戰兵力ハ逐次増大致シマシテ、軍

隊幹部ノ所要數ガ著シク增加シタニ對應スル爲メ、一年志願兵又ハ一年現役兵出身將校ニシテ、既ニ退役トナリマシタル者ノ中、

年齡滿五十年ノ三月三十一日ニ至ラザル者ヲ豫備役ニ復歸セマシテ、幹部候補生出身將校ト同程度ノ軍務ニ復セシメントスルモノデアリマス

次ニ陸軍刑法中改正法律案及ビ海軍刑法中改正法律案ノ内容ハ、其ノ本質ニ於キマシテ申上ゲマス、此ノ改正案ハ、何レモ支那事變ノ經驗ニ鑑ミ、大東亞戰爭ニ對應スル爲メ、特ニ緊要ナル部分ニ關スルモノデアリマス、其ノ要點ノ第一ハ、兵役法ノ改正、其ノ他ノ制度ノ改廢ニ伴ヒマシテ、陸海軍軍人ノ名稱例ニ關スル規定ヲ改正シタ點デアリマス、第二ハ、從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避ケル罪、抗命ノ罪、逃亡ノ罪、兵役ヲ免ル罪等、重要ナル軍規犯罪ノ刑ヲ強化シタコトデアリマス、第三ハ、上官殺傷ノ罪ヲ新設シ、又ハ整備シタコトデアリマス、第四ハ、軍用航空機、戰車、自動車等、所謂新兵器ノ保護ニ關スル規定ヲ整備致シ、特ニ航空機ノ墜落、覆沒破壞等ノ罪ヲ艦船覆没ノ罪ト同程度ニシタコトデアリマス、第五ハ、戰地又ハ占領地ニ於ケル特殊事情ニ鑑ミマシテ、婦女強姦ノ罪ヲ新設シ、之ヲ非親告罪トシタコトデアリマス、第六ハ、軍事ニ關スル造言飛語ノ罪ノ刑ヲ高メタコトデアリマス

次ニ陸軍軍法會議法中改正法律案及ビ海軍軍法會議法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、此ノ兩法案ノ要點ハ、從來文官法ノ方法ヲ整備スルコトニ依ツテ、所期ノ目的ヲ達成シ得ルト考ヘマスルノデ、現在ノ法權運用ヲシテ益々建軍ノ本旨ト締帥ノ要

求ニ適應セシムル爲メ、何レモ之ヲ武官ニ改メマシテ、之ニ關スル諸規定ヲ整備シタ

コトデアリマス、尙ホ右ノ外、海軍軍法會議法ニ於キマシテハ、戰地又ハ占領地ニ於テ憲兵ノナイ時ニハ、海軍大臣ハ必要ニ應ジ、海軍軍人軍屬中ヨリ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ヲ指定シ得ル規定ヲ設ケ、且ツ要港部令、警備府令等、諸制度ノ改正ニ伴ヒマシテ、所要ノ改正ヲ加ヘタコトデアリマス

次ハ船舶保護法中改正法律案ノ内容ニ付キ申上ゲマス、今回遞信省管船局ガ改組サキ申上ゲマス、今回遞信省管船局ガ改組サル爲メ、新タニ外局トシテ海務院ガ設置セラレ、新タニ外局トシテ海務院ガ設置セラレ、其ノ職員中、所要ノ地位ニ海軍現役士官ヲ配員セラルルコトトナリマシタノデ、船舶保護上平時ヨリ準備セシムベキ事項ノ一部ヲ免ルル罪等、重要ナル軍規犯罪ノ刑ヲ強化シタコトデアリマス、第三ハ、上官殺傷ノ罪ヲ新設シ、又ハ整備シタコトデアリマス、第四ハ、軍用航空機、戰車、自動車等、所謂新兵器ノ保護ニ關スル規定ヲ整備致シ、特ニ航空機ノ墜落、覆沒破壞等ノ罪ヲ艦船覆没ノ罪ト同程度ニシタコトデアリマス、第五ハ、戰地又ハ占領地ニ於ケル特殊事情ニ鑑ミマシテ、婦女強姦ノ罪ヲ新設シ、之ヲ非親告罪トシタコトデアリマス、第六ハ、軍事ニ關スル造言飛語ノ罪ノ刑ヲ高メタコトデアリマス

次ニ陸軍軍法會議法中改正法律案及ビ海軍軍法會議法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、此ノ兩法案ノ要點ハ、從來文官法ノ方法ヲ整備スルコトニ依ツテ、所期ノ目的ヲ達成シ得ルト考ヘマスルノデ、現在ノ法權運用ヲシテ益々建軍ノ本旨ト締帥ノ要

條件ノ下ニアル兵役義務者ニシテ、一方ハ

ニ回シカ應召セヌノニ、他方ハ三回モ應召ヨリ國民ノ最高義務デアリマスルカラ、國民ハ喜ンデ之ニ應ジマスルケレドモ、同様ノ

モ、成ベク召集ヲ公平ニスルヤウ考慮ノ餘地ハナイカトノ質問ニ對シマシテ、召集ノスルガ如キハ不公平ナリト思ハルケレドモ、成ベク召集ヲ公平ニスルヤウ考慮ノ餘度重ナルニ連レテ召集ノ公平化ト云フコト

ニ付テハ細心ノ注意ヲ拂ツテ居リマス、現ニ今回ノ臨時編制部隊アタリニハ、ワザ～中央ヨリ人ガ參リマシテ、斯カル點ヲ間違ヘザルヤウ、公平ナルヤウ指導シテ居リマス

斯クテ討論ニ入リマシテ西村茂生君、原口初太郎君、北浦圭太郎君ノ諸君ヨリ、ソレド～所屬會派ヲ代表シマシテ、原案ニ賛成スル旨ノ發言ガアリ、採決ノ結果、全會一致可決致シマシタ、右御報告申上ゲマス

(拍手) 唯政府ノ答辯中特ニ國民ニ於テ關心ヲ持

クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ七案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(田子一民君) 七案ノ第二讀會ヲ開

クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ七案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(田子一民君) 依光好秋君 直チニ七案ノ第一讀會ヲ開

キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決サレンコトヲ望ミマス

○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

仍テ直チニ七案ノ第一讀會ヲ開キ、議案全

部ヲ議題ト致シマス

兵役法及共通法中改正法律案

第一讀會(確定議)

退役將校ノ豫備役復歸ニ關スル法律案

第一讀會(確定議)

陸軍刑法中改正法律案

第一讀會(確定議)

陸軍軍法會議法中改正法律案

第一讀會(確定議)

海軍刑法中改正法律案

第一讀會(確定議)

海軍軍法會議法中改正法律案

第一讀會(確定議)

船舶保護法中改正法律案

第一讀會(確定議)

○議長(田子一民君) 別ニ御發議モアリマ

セス、第三讀會ヲ省略シテ、七案トモ委員

長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)――

日程第八、昭和十五年度第一豫備金支出ノ件外七件、承諾ヲ求ムル件ヲ括シテ議題

ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス――

委員長板谷順助君

昭和十五年度第一豫備

金支出ノ件

第一豫備金支出ノ件

昭和十五年度特別會計

豫備費支出ノ件

昭和十六年度第一豫備

豫算外支出ノ件

第八
昭和十六年度特別會計

第二豫備金支出ノ件

昭和十六年度特別會計

豫備金外豫算超過及豫

算外支出ノ件

自昭和十六年十一月一日臨時軍事費特

至同 年十一月五日臨時

軍事費特別會計豫備費

外豫算超過支出ノ件

報告書

一昭和十五年度第一豫備金支出ノ件(承

諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和十七年二月九日

委員長 板谷 順助

衆議院議長田子一民殿

報告書

一昭和十五年度豫備金外豫算外支出ノ件

(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和十七年二月九日

委員長 板谷 順助

衆議院議長田子一民殿

報告書

一昭和十五年度特別會計第一豫備金支出

ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和十七年二月九日

委員長 板谷 順助

衆議院議長田子一民殿

報告書

報告書

一昭和十六年度豫備金外豫算外支出ノ件

(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和十七年二月九日

委員長 板谷 順助

衆議院議長田子一民殿

報告書

一昭和十六年度豫備金外豫算外支出

ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和十七年二月九日

委員長 板谷 順助

衆議院議長田子一民殿

報告書

一昭和十六年度豫備金外豫算外支出

ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和十七年二月九日

委員長 板谷 順助

衆議院議長田子一民殿

報告書

報告書

一自昭和十六年十一月一日臨時軍事費特

別會計豫備費外豫算超過支出ノ件(承

諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和十七年二月九日

委員長 板谷 順助

衆議院議長田子一民殿

報告書

一昭和十六年度豫備金外豫算外支出

ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和十七年二月九日

委員長 板谷 順助

衆議院議長田子一民殿

報告書

一昭和十六年度豫備金外豫算外支出

ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和十七年二月九日

委員長 板谷 順助

衆議院議長田子一民殿

報告書

一昭和十六年度豫備金外豫算外支出

ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議

決致候此段及報告候也

昭和十七年二月九日

委員長 板谷 順助

衆議院議長田子一民殿

報告書

第七條 政府ハ農地證券臺帳ニ基キ額面

金額百圓、五百圓、二千圓、五千圓ノ

四種ノ農地證券ヲ交付シテ收用補償金

ノ支拂ニ代フ

前項ニ依リテ受クベキ補償金ノ總額ガ

百圓未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ其ノ

端數ハ金錢ヲ以テ之ヲ支拂フ

第八條 農地證券ハ記名式トシテ裏書ニ

依リ讓渡スルコトヲ得

第九條 農地證券ノ所持者ハ毎年一回券

面額ニ對シ命令ヲ以テ定ムル一定率ニ

依ル金額ノ支拂フ受ク

第三章 農地ノ管理

第十條 前章ノ規定ニ依ル國有農地ハ命

令ヲ以テ定ムル農地管理規則ニ依リ該

農地所在ノ市町村又ハ之ニ近接スル市

町村ニ居住スル農業者又農業者タラム

トスルモノニ之ヲ貸與ス

農業組合ガ生産力擴充ノ爲共同經營ノ

必要ニシテ且有利ナリト決定シ勅令ヲ

以テ定ムル道府縣農地委員會ガ認可シ

タル區域ノ農地ハ該組合ニ貸付ヲ爲ス

コトヲ要ス

第十一條 政府ハ農地ヲ高度ニ利用セシ

ムル爲一定區域内ノ自作人及耕作人ヲ

以テ農業組合ヲ組織セシメ之ニ對シ必

要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 耕作人及農業組合ハ政府ニ對

シ借受農地ノ耕作料ヲ納入スペシ

第十三條 耕作料ハ農地ノ主タル農作物

ノ平年作收穫量ノ二割五分ノ限度内ニ

於テ農地管理規則ノ定ムル所ニ依リ市

町村農地委員會ノ議ヲ經テ農地一筆每

ノ借賃又ハ小作料ガ農地ノ主タル農作

物ノ平年作收穫量ノ二割五分以下ナリ

シ場合ニ於テハ其ノ限度ヲ超エテ耕作

料ヲ定ムルコトヲ得ズ

第十四條 耕作料ハ物納トス但シ之ト異

リタル慣習アル場合ハ該慣習ニ依ル

第十五條 耕作料ノ納期ハ毎年一回毎年

末トス但シ之ト異リタル慣習アル場合

ハ該慣習ニ依ル

前項ノ納期前十五日以内ニ第十七條第

三項ノ決定ナカリシトキハ其ノ決定ア

リタル日ヨリ後十五日ヲ納期トス

第十六條 耕作料以外ニ敷金權利金其ノ

他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第十

三條ニ定ムル耕作料ノ範圍ヲ超エテ財

産上ノ利益ヲ求ムルコトヲ得ズ

第十七條 耕作人又ハ農業組合若ハ農業

組合員其ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ

依リ收穫量減少シ其ノ程度ガ農地管理

規則ノ定ムル限度ヲ超ユル場合ニ於テ

ハ該農地ノ耕作料ノ減免ヲ請求スルコ

トヲ得

前項ニ依ル減免ノ請求アリタルトキハ

農地管理規則ノ定ムル所ニ依リ市町村

農地委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決

定ス

第十八條 耕作料ノ徵收ニ付テハ國稅徵

收法ヲ準用ス但シ物納耕作料ノ滯納處

分ハ現物ヲ徵收シ現物ナキ場合及不足

スル場合ニ於テハ納期ニ於ケル現物ノ

價格ノ範圍内ニ於テ他ノ財產ヲ差押フ

ルコトヲ得

第十九條 耕作人又ハ農業組合ハ政府ノ

許可ナクシテ農地ニ永久ノ變更ヲ加ヘ

又ハ耕作權ノ讓渡若ハ轉貸ヲ爲スコト

得ズ

第二十條 政府ハ公共ノ必要其ノ他農地

管理規則ノ定ムル正當ナル事由アル場

合又ハ耕作人ガ宥恕スベキ事情ナキニ

拘ラズ耕作料ヲ滯納シ若ハ第十一條ノ

命令ニ從ハズ又ハ第十九條ニ違背スル

等信義ニ反シタル行爲アリタル場合ハ

何時ニテモ耕地ヲ返還セシムルコトヲ

得

第二十一條 前條ノ場合ヲ除クノ外耕作

人ハ其ノ耕作權ヲ失フコトナシ

第十二條 耕作人又ハ農業組合ガ農地

ヲ返還セムトスルトキハ收穫季節後次

ノ耕作ニ著手スル二箇月以前ニ届出ヲ

爲スベシ

一箇年以上耕作ヲ爲サズ又ハ耕作不能

トナリタルトキハ該農地ハ之ヲ政府ニ

返還シタルモノト看做ス

前項ノ事實ガ收穫期ノ中途ニ於テ生ジ

タル場合ト雖該年度ノ耕作料ハ之ヲ納

入スベキモノトス

第十三條 耕作人又ハ農業組合ガ農地

ヲ返還シタル場合ハ政府ハ其ノ耕作人

又ハ農業組合ニ對シ離作料ヲ支拂フコ

トヲ要ス

離作料ノ額ハ農地管理規則ノ定ムル所

ニ依リ市町村農地委員會ノ議ヲ經テ主

務大臣之ヲ決定ス

第二十四條 農地ヲ農業以外ノ目的ニ使

用セムトスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

ニ達スル迄農地ヲ買取ルコトヲ得

第三十條 現ニ自作地タルモノ及第二十

八條又ハ第二十九條ニ依リ創設セラレ

タル自作地及附屬工作物ハ適正規模耕

地面積ノ限度内ニ於テ之ヲ世襲ノ家產

民法第五百三十三條ハ前項ノ場合ニ之

ヲ準用ス

第二十五條 自作人ガ自作ヲ廢止シ又ハ

耕作人若ハ農業組合ガ返還シタルモノ

ト看做ナレタル農地ハ之ニ隣接スル農

地ノ農業者ニ於テ命令ヲ以テ定ムル適

正規模耕地面積ノ限度内ニ於テ他ニ優

先シテ貸付ヲ受クルコトヲ得

第二十六條 農業者ハ農地管理規則ノ定

ム所ニ依リ政府ノ許可ヲ得テ農地ノ

交換分合ヲ爲スコトヲ得

政府必要アリト認ムルトキハ農地管理

規則ノ定ムル所ニ依リ市町村農地委員

會ノ議ヲ經テ農地ノ交換分合ヲ命ズル

コトヲ得

第二十七條 農地ノ交換分合又ハ耕作權

ノ讓渡轉貸アリタル後ノ農地ノ面積耕

作料ニ付テハ主務大臣之ヲ決定ス

第四章 自作地

第二十八條 耕作人ハ自己ノ耕地ニ付家

産制自作農創設令ノ定ムル所ニ依リ適

正規模耕地面積ニ達スル迄國有農地ヲ

他ニ優先シテ自作地トシテ買取ルコト

ヲ得

第二十九條 自作人ハ自家產制自作農創設

令ノ定ムル所ニ依リ適正規模耕地面積

ニ達スル迄農地ヲ買取ルコトヲ得

第三十條 現ニ自作地タルモノ及第二十

八條又ハ第二十九條ニ依リ創設セラレ

タル自作地及附屬工作物ハ適正規模耕

地面積ノ限度内ニ於テ之ヲ世襲ノ家產

トシテ該農地ハ家產制自作農創設令ノ

定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ

非ザレバ之ヲ讓渡若ハ貸付其ノ他ノ處

ヲ得ズ

第三十一條 家産タル自作地ハ其ノ旨之ヲ登記スルコトヲ要ス

第三十二條 家産タル自作地及其ノ附屬作物ハ前條ニ依ル登記前其ノ目的物ニ付生ジタル債權ヲ除キ民事上ノ強制執行ノ目的ヲ以テ之ヲ差押フルコトヲ得ズ

第三十三條 家産タル自作地ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

家族方自作人ナル場合ノ遺產相續人ニ付テハ家産タル自作地ニ限り民法第九百六十八條乃至第九百八十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 政府ノ許可アリタル場合ニ限リ自作地ヲ二以上ノ家産タル自作地ニ分割スルコトヲ得

附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際質貸借又ハ永小作關係ノ存續スル農地ニ付テハ第十條第一項ニ依リ貸付アリタルモノト看做ス

○依光好秋君 本案ハ政府提出、米穀需給調節特別會計法中改正法律案委員ニ併セ付託セラレントヲ望ミマス

○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ——獸醫師法第二條ノ臨時特例ニ關スル法律案、明治四十五年法律第二十一號中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長三善信房君

獸醫師法第一條ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)

明治四十五年法律第二十一號中改正法律案(臘虎膚納獸獵獲禁止ニ關スル件)
(政府提出、貴族院送付)

獸醫師法第一條ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)

先づ獸醫師法第二條ノ臨時特例ニ關スル法律案ノ内容ニ付テ申上ゲマス、從來ノ獸醫師法第二條ニ依リマスレバ、未成年者ニ對シマシテハ、獸醫師ノ免許ヲ與ヘルコトガ出來ヌコトニナツツ居ツタノデアリマスガ、緊迫セル現下ノ情勢ニ即應致シマシテ、大學、專門學校ノ在學年限ノ臨時短縮ニ伴ヒマシテ、右大學、專門學校卒業者中ノ未成年者ニ對シマシテ獸醫師ノ免許ヲ與ヘ、當時下畜產資源ノ確保ヲナサントスルノデアリマス、右法案ニ對シマシテ多數ノ委員諸君カラ質疑ガアリマシダガ、其ノ主ナル點ニ付テ申上ゲテ見タイト思ヒマス

本法案ハ獸醫師不足ノ折柄極メテ適切ナル處置デアリマスルガ、我が國ノ馬產及び畜產ハ國家國防上、產業上重大ナル使命ヲ活躍シ、畜牛ハ銳後產業ニ使役セラレテ居リマシテ、高度國防國家完遂上是ガ増産ト、資質ノ向上トハ喫緊ノ要務デアリマスレバ、我ガ國ノ水產ハ、大東亞戰爭ノ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、獸醫師法第二條ノ臨時特例ニ關スル法律案及び

ノ兩案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

ス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ——獸醫

師法第二條ノ臨時特例ニ關スル法律案、明治四十五年法律第二十一號中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長三善信房君

衆議院議長田子一民殿

○三善信房君 只今議題トナリマシタ獸醫

師法第二條ノ臨時特例ニ關スル法律案並ニ明治四十五年法律第二十二號中改正法律案、臘虎膚納獸獵獲禁止ニ關スル件、右兩案ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過及ビ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲタイト思フノデアリマス

獸醫師法第二條ノ臨時特例ニ關スル法律案ノ内容ニ付テ申上ゲマス、從來ノ獸

醫師法第二條ニ依リマスレバ、未成年者ニ對シマシテハ、獸醫師ノ免許ヲ與ヘルコトガ出來ヌコトニナツツ居ツタノデアリマスガ、緊迫セル現下ノ情勢ニ即應致シマシテ、大學、專門學校ノ在學年限ノ臨時短縮ニ伴ヒマシテ、右大學、專門學校卒業者中ノ未成年者ニ對シマシテ獸醫師ノ免許ヲ與ヘ、當時下畜產資源ノ確保ヲナサントスルノデアリマス、右法案ニ對シマシテ多數ノ委員諸君カラ質疑ガアリマシダガ、其ノ主ナル點ニ付テ申上ゲテ見タイト思ヒマス

次ニ明治四十五年法律第二十一號中改正法律案ノ内容ニ付テ申上ゲマス、從來臘虎膚納獸ノ獵獲ハ臘虎膚保護條約ニ基キマシテ禁歟ガアリマシタ、尙ホ馬政方針ニ對シマシテハ、南方ニ進出致シテ居ルト雖モ、北方ノ備へハ一日モ怠ルコトハ出來ヌノデアルガ故ニ、我ガノ馬政方針ノ根本ニハ、何等ノ變革ヲ來サナイトノ言明ガアツタノデアリマス

我ガ國馬政及ビ畜產ノ進展ニ資シタイトノ答辯ガアリマシタ、尙ホ馬政方針ニ對シマシテハ、南方ニ進出致シテ居ルト雖モ、北方ノ備へハ一日モ怠ルコトハ出來ヌノデアルガ故ニ、我ガノ馬政方針ノ根本ニハ、何等ノ變革ヲ來サナイトノ言明ガアツタノデアリマス

次ニ明治四十五年法律第二十一號中改正法律案ノ内容ニ付テ申上ゲマス、從來臘虎

膚納獸ノ獵獲ハ臘虎膚保護條約ニ基キマシテ禁歟ガアリマシタ、尙ホ馬政方針ニ對シマシテハ、現行制度般右條約ガ失效致シマシタノデ、現行制度ヲ改メテ、政府ガ必要ニ應ジマシテ是ガ禁

止制限ノ措置ヲ執リ、海洋漁業資源ノ統制ヲナサントスルノガ其ノ法案ノ内容デアリ

マス、尙ホ特殊機關ヲ設ケマシテ、之ヲシテ獵獲セシムルト云フコトガ、此ノ獵獲ニ

リマス、右ニ關スル主ナル質疑ニ付テ申上ゲ

マスレバ、我ガ國ノ水產ハ、大東亞戰爭ノ

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十七年二月十日

委員長 森田 福市

衆議院議長田子一民殿

〔森田福市君登壇〕

○森田福市君 只今議題ニナリマシタ五案
ヲ一括致シマシテ、本委員會ニ於ケル經過
並ニ結果ニ付テ御報告申上ダムス

本委員會ニ於キマシテハ、一月三十日ヨ

リ開會致シマシテ、本日マデ前後六回ニ瓦

リマス、質疑ハ恩給法及ビ北支那開發、中

支那振興兩會社法ノ三案ニ集中セラレタノ

デアリマスガ、其ノ詳細ニ付テハ速記錄デ

諒承願フコト致シマシテ、茲ニ重要ナル

案ノ内容及ビ質疑應答ノ二、三ダケヲ御紹

介申上ダタイト存ジマス

先ツ第一ニ恩給法中改正法律案ノ大體ノ

趣旨ヲ申上ダマスト、現行恩給法デハ戰地

ト戰地外トヲ區別シテ、戰地ノ戰務ノ場合

ニアリマシテハ、戰務期間一月ニ付キ三月

ヲ加算シ、戰地外ノ戰務ノ場合ニアリマシ

テハ、戰務期間一月ニ付キ一月ヲ加算スル

コトニナツテ居ルノデアリマスガ、近時ノ

月ヨリ短イ加算ヲ付ケルヲ適當トスル場合

モアル、又一方戰地外ニ於テモ、敵ノ航空

ト云フコトハ、必ズシモ實情ニ副ハズ、三

同一程度ノ狀態が續クトハ限ラヌノデアリ

マシテ、其ノ間種々段階ガアリマス、隨テ

戰地ニハ一律ニ一月ニ付キ三月ヲ加算スル

戰争デハ、宣戰カラ休戰マデ必ズシモ常ニ

コトニナツテ居ルノデアリマスガ、近時ノ

月ヨリ短イ加算ヲ付ケルヲ適當トスル場合

モアル、又一方戰地外ニ於テモ、敵ノ航空

機ヤ、潛水艦ノ我ガ國土ヲ襲フコトモアリ

得マスノデ、是等ノ敵ニ對シテ作戰シアル

モノニ、内地デ勤務スルト云フ理由デ、一

律ニ一月ニ付キ一月ノ加算ヲスルト云フダ
ケデハ不十分ナ場合ガアリマスノデ、現行
法ノ戰地ト戰地外ノ區別ヲ撤廢シ、戰務ノ
内容ニ應ジテ、其ノ期間一月ニ付キ三月以
内デ適當ナ加算ヲ付ケルコトガ出來ルヤウ

ニ規定ヲ改メ、又戰死者ノ遺族ヤ、公務死
亡者ノ遺族扶助料ハ、昭和十三年ニ一應増
額シタノデアリマスガ、現下ノ情勢ニ照シ、
更ニ一層厚クスル必要ガアリマスノデ、少
額扶助料ノ受給者、即チ軍人デ申シマスル
ト、中尉以下ノ者ノ遺族扶助料ヲ增額スルコ
トトシ、増額ノ割合ハ下ノ者ニ厚ク、上ノ
者ニ薄クスルト云フ方針デ、大體兵ノ遺族
デ四割増、中尉ノ遺族デ三分増トシ、其ノ
中間ハ上下ノ間ニ不均衡ガ生ジナイヤウナ
割合ニスルト共ニ、現在ノ制度デハ遺族ノ
員數ニ依ル加給額ハ、五人マデハ順次累増
シ、六人以上ハ五人ノ場合ト同額トナツテ
居ルノヲ、今回ハ人口政策ヲモ考慮シ、六
人以上ノ場合ニモ其ノ員數ニ應ジテ扶助料
ヲ累増スルコトトセラレタ點等デアリマス

本委員會ニ於キマシテハ、數回ニ瓦ツテ
開會シテ、各委員カラ非常ニ熱心ナル質疑
ガアリ、政府委員ヨリ詳細ナ應答ガアツタ
ノデアリマスガ、其ノ主ナル點ノ一、ニヲ
申上ダマスト、第一ハ、恩給以外ニ多額
ノ所得アル場合ニハ、モツト恩給ノ停止ヲ
強化シテハドウカ、又總動員法ノ規定ニ依
ツテ官廳ノ權限ノ一部ヲ委任セラレテ居ル
所ノ統制會ヤ、政府ニ關係ノアル各統制團
體、各營團、國策會社及ビ準國策會社等ニ
モ見ラレルノデアリマスカラ、是等ノ職員
ハ會社カラ相當多額ナ報酬ヲ受ケテ居ルノ
デアルカラ、其ノ收入ガ前職ノ官吏ノ時代

ニアツタ所ノ收入以上ノ高額ノ收入者ニ
ハ、此ノ三割ノ停止ダケデハ足ラナイカラ、
恩給ヲ停止スルヤウニシテハドウデアルカ
ト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ハ適當ナ
機會ニ善處スルトノ答辯ガアツタノデアリ

マス

次ニ現在ノ恩給ハ額モ少ク、是ノミデハ
老後ノ生活モ十分デナイカラ、現在ノ恩給
ヲ一時金トスルカ、又ハ年金ト一時金トノ
選擇トシテ受給者ニ資金ヲ與ヘル途ヲ開イ
テハドウデアルカト云フ質問ニ對シマシテ
ハ、何分受給者ノ大部分ハ生活ニ餘裕ナキ
モノデ、年金ト一時金ヲ選擇セシメマスト、
大部部分ハ一時金ヲ選擇スル結果トナルト考
ヘマス、然ルニ恩給受給者ノ大部分ハ、傷
痍軍人ヤ戰死者ノ遺族デアリ、又軍人ノ中
ノ下士官ヤ、巡查デアリマスガ、是等ノ者
ハ特別ノ教育ヲ受ケ、特別ナ環境デ勤務シ
テ居ルノデアリマスカラ、自然經濟界ノ事
情ニモ疎イノデアリマス、此ノヤウナ者ガ
是デ商賣ヲ始メタト致シマシテモ、元モ子
モナクナル危險ガアリマスカラ、是デハ老
後ノ生活安定ノ一助トスルト云フ恩給制度
ノ目的ガ達セラレマセヌカラ、恩給ヲ一時金
トスルト云フコトハ、餘程考慮シナケレバ
ナラヌ問題デアルト云フ答辯ガアツタノデ
アリマス

次ニ今回ノ扶助料増額ノ問題トシテハ、
ドウシテモ大尉以下ノ遺族扶助料ヲ、一樣
ニ増額スペキモノデアルト思フガ、之ヲ中
尉以下ニ限ツタノハドウ云フ譯デアルカト
シテ居ル防衛部隊、敵潛水艦ノ防衛哨戒ニ
従事シテ居ル海軍部隊等デアルト云フ答辯
ガアツタノデアリマス、尙ホ此ノ外ニモ數
點アリマシタガ、詳細ハ速記錄デ御諒承願
ヒタイト思ヒマス

尙ホ北支那開發及ビ中支那振興ノ兩社ノ

リマシテ、現行法デハ大尉ト中尉トデハ、
法案ハ、出資ノ增加並ニ北支那開發會社ニ

デアツタ所ノ收入以上ノ高額ノ收入者ニ
ハ、此ノ三割ノ停止ダケデハ足ラナイカラ、
恩給ヲ停止スルヤウニシテハドウデアルカ
ト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ハ適當ナ
機會ニ善處スルトノ答辯ガアツタノデアリ
ニ規定ヲ改メ、又戰死者ノ遺族ヤ、公務死
亡者ノ遺族扶助料ハ、昭和十三年ニ一應増
額シタノデアリマスガ、現下ノ情勢ニ照シ、
更ニ一層厚クスル必要ガアリマスノデ、少
額扶助料ノ受給者、即チ軍人デ申シマスル
ト、中尉以下ノ者ノ遺族扶助料ヲ增額スルコ
トトシ、増額ノ割合ハ下ノ者ニ厚ク、上ノ
者ニ薄クスルト共ニ、現在ノ制度デハ遺族ノ
員數ニ依ル加給額ハ、五人マデハ順次累増
シ、六人以上ハ五人ノ場合ト同額トナツテ
居ルノヲ、今回ハ人口政策ヲモ考慮シ、六
人以上ノ場合ニモ其ノ員數ニ應ジテ扶助料
ヲ累増スルコトトセラレタ點等デアリマス

本委員會ニ於キマシテハ、數回ニ瓦ツテ
開會シテ、各委員カラ非常ニ熱心ナル質疑
ガアリ、政府委員ヨリ詳細ナ應答ガアツタ
ノデアリマスガ、其ノ主ナル點ノ一、ニヲ
申上ダマスト、第一ハ、恩給以外ニ多額
ノ所得アル場合ニハ、モツト恩給ノ停止ヲ
強化シテハドウカ、又總動員法ノ規定ニ依
ツテ官廳ノ權限ノ一部ヲ委任セラレテ居ル
所ノ統制會ヤ、政府ニ關係ノアル各統制團
體、各營團、國策會社及ビ準國策會社等ニ
モ見ラレルノデアリマスカラ、是等ノ職員
ハ會社カラ相當多額ナ報酬ヲ受ケテ居ルノ
デアルカラ、其ノ收入ガ前職ノ官吏ノ時代

ニアツタ所ノ收入以上ノ高額ノ收入者ニ
ハ、此ノ三割ノ停止ダケデハ足ラナイカラ、
恩給ヲ停止スルヤウニシテハドウデアルカ
ト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ハ適當ナ
機會ニ善處スルトノ答辯ガアツタノデアリ

マス

次ニ現在ノ恩給ハ額モ少ク、是ノミデハ
老後ノ生活モ十分デナイカラ、現在ノ恩給
ヲ一時金トスルカ、又ハ年金ト一時金トノ
選擇トシテ受給者ニ資金ヲ與ヘル途ヲ開イ
テハドウデアルカト云フ質問ニ對シマシテ
ハ、何分受給者ノ大部分ハ生活ニ餘裕ナキ
モノデ、年金ト一時金ヲ選擇セシメマスト、
大部部分ハ一時金ヲ選擇スル結果トナルト考
ヘマス、然ルニ恩給受給者ノ大部分ハ、傷
痍軍人ヤ戰死者ノ遺族デアリ、又軍人ノ中
ノ下士官ヤ、巡查デアリマスガ、是等ノ者
ハ特別ノ教育ヲ受ケ、特別ナ環境デ勤務シ
テ居ルノデアリマスカラ、自然經濟界ノ事
情ニモ疎イノデアリマス、此ノヤウナ者ガ
是デ商賣ヲ始メタト致シマシテモ、元モ子
モナクナル危險ガアリマスカラ、是デハ老
後ノ生活安定ノ一助トスルト云フ恩給制度
ノ目的ガ達セラレマセヌカラ、恩給ヲ一時金
トスルト云フコトハ、餘程考慮シナケレバ
ナラヌ問題デアルト云フ答辯ガアツタノデ
アリマス

次ニ今回ノ扶助料増額ノ問題トシテハ、
ドウシテモ大尉以下ノ遺族扶助料ヲ、一樣
ニ増額スペキモノデアルト思フガ、之ヲ中
尉以下ニ限ツタノハドウ云フ譯デアルカト
シテ居ル防衛部隊、敵潛水艦ノ防衛哨戒ニ
従事シテ居ル海軍部隊等デアルト云フ答辯
ガアツタノデアリマス、尙ホ此ノ外ニモ數
點アリマシタガ、詳細ハ速記錄デ御諒承願
ヒタイト思ヒマス

尙ホ北支那開發及ビ中支那振興ノ兩社ノ

リマシテ、現行法デハ大尉ト中尉トデハ、
法案ハ、出資ノ增加並ニ北支那開發會社ニ

(山谷義治君登壇)

○由谷義治君 政府提出日本勸業銀行法中改正法律案、農工銀行法中改正法律案、北海道拓殖銀行法中改正法律案、國民貯蓄組合法中改正法律案、稅務代理士法案、社債等登錄法案、會計法戰時特例案、右七件委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、先づ審議經過ノ御紹介デアリマスガ、前後六回ニ至ル委員會ハ、委員諸君ヨリ極メテ熱心ニシテ有益ナル多數ノ質問ガアリ、政府當局ノ答辯亦之ニ對應スルモノガアリマシタガ、其ノ一切ハ擧ゲテ悉ク速記録ニ譲リタイト思ヒマス、何卒御諒承ノ上、就イテ以テ分ニ御參照アランコトヲ希望致シマス

次ニ委員會ノ結果デアリマス、本日午後一時議案全部ヲ議題トシテ討論ニ付シマシタ、深澤吉平君、石坂豊一君、川俣清音君及ビ蘿澤七郎君ヨリ各會派ヲ代表スル立場ニ於テ、各案ニ對シ時局ノ要請ヲ對象トシテ、眞劍ナル希望意見ヲ付シツツ原案賛成ノ御發言ガアリ、採決ノ結果全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、以上ヲ以テ委員長報告ト致シマス(拍手)

○議長(田子一民君) 七案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ七案ノ第一讀會ヲ開クニ決シマシタ

○依光好秋君 直チニ七案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決サレンコトヲ望ミマス
○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

衆議院議事速記録第十一號中正誤

一八〇頁二段終ヨリ八行目「陸海軍將兵訓練中ノ殉職者懲罰ニ關スル建議案」ヨリ同頁三段十五行目「右建議ス」マテハ重複誤植ニ付削除ス

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ七案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

日本勸業銀行法中改正法律案

第二讀會(確定議)

農工銀行法中改正法律案

第二讀會(確定議)

北海道拓殖銀行法中改正法律案

第二讀會(確定議)

國民貯蓄組合法中改正法律案

第二讀會(確定議)

稅務代理士法案

第二讀會(確定議)

社債等登錄法案

第二讀會(確定議)

會計法戰時特例案

第二讀會(確定議)

○議長(田子一民君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、七案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス